

## ▶ 第48回日本脈管学会

# 重症虚血肢治療は腸骨動脈領域、バージャー病で好成績

松本市で開かれた第48回日本脈管学会(会長=信州大学大学院器官制御生理学講座・大橋俊夫教授)のシンポジウム「血管再生医学のトピックス」(座長=千葉大学大学院循環病態医科学・小室一成教授、信州大学大学院臓器発生制御医学・池田宇一教授)では、骨髄ないし末梢血単核球細胞移植や肝細胞増殖因子(HGF)遺伝子プラスミドによる重症虚血肢の治療成績、新規血管新生ペプチドの開発状況などについて報告があった。

## 自己骨髓单核球細胞移植が 指趾虚血に有効性示す

先端医療センター(兵庫県)の浅原孝之氏らが1997年、ヒト末梢血中に血管内皮前駆細胞(EPC)が存在することを報告してから10年が経過した。信州大学大学院循環器病態学分野の高橋将文准教授らは、難治性血管炎患者54例に自己骨髓单核球細胞移植による血管新生療法を行った結果、膠原病、特に強皮症に関連した難治性血管炎による指趾虚血に対する有効性が示唆されたと報告した。

### バージャー病では有効率9割

高橋准教授らは当初、閉塞性動脈硬化症(ASO)患者を対象に自己骨髓細胞移植療法の効果を検討していたが、今春の日本循環器学会での京都府立医科大学大学院循環器内科学の松原弘明教授らの同療法についての発表でもASOよりもバージャー病患者の非切断率が高かったことから、バージャー病に類似した膠原病関連の難治性血管炎にも効果があるのではないかと考え、今回の研究を実施したという。

研究は信州大学、札幌北楡病院、新潟大学、自治医科大学、日本医科

性多発性動脈炎1例で、軽度有効はCREST症候群と混合性結合組織病各1例、無効と判断されたのはCREST症候群と抗リン脂質抗体症候群各1例であった。

次に有害事象は原疾患(強皮症)の

増悪による指趾虚血再燃1例、移植直後のめまい(強皮症の1例)、咽頭痛(強皮症の1例)があった。

同准教授は「今回の研究により膠原病、特に強皮症に関連した難治性血管炎による指趾虚血に対して自己骨髓細胞移植療法が有効であることが示唆された」と結んだ。

大学、横浜市立大学、名古屋大学、京都府立医科大学、熊本医療センターでの多施設共同による厚生労働省班会議研究である。

対象はASO患者76例、バージャー病患者40例、膠原病患者14例の計126例で、膠原病の内訳は強皮症9例、CREST症候群2例、混合性結合組織病、抗リン脂質抗体症候群、結節性多発動脈炎各1例である。

自己骨髓单核球細胞移植により、バージャー病群では、有効率9割以上と非常に高い有効性を示した。一方、膠原病群では有効率が約7割、軽度有効が2割弱であった(図)。

膠原病群をさらに詳しく見ると、有効症例は強皮症の9例全例と結節

〈図〉原疾患別有効率

